

# 清流 ニュース

発行所  
八王子市子安町 1-22-25  
清流寺  
清流ニュース編集室  
電話(042)646-0287(代)  
FAX(042)644-1164  
http://seiryuji.jp.org/

平成二十七年 度 総 祈 願  
本 年 度 教 化 誓 願 達 成  
佛 立 開 導 日 扇 聖 人 二 百 年 慶 讃  
佛 立 開 花 運 動 第 三 年 度 御 奉 公 成 就 之 御 願  
晨 尊 三 十 三 回 御 諱 報 恩 御 奉 公 成 就  
役 中 後 継 者 養 成 法 灯 相 統 続 促 進

平成廿八年度  
四大会日程決まる  
表記の通り、平成廿八年度の  
の当山、四大会の日程が決定  
いたしました。

導師をお勤めになります。  
館山・廣全寺は法類巡教、  
麻布・光隆寺は、先代住職の  
ご年回法要も併修されること  
になつております。

十月の御総講日  
一日 十時 御修行日  
七日 十時 バースデー総講  
日序上人報恩祈念  
十七日 九時半 開導御命日  
廿五日 十時 門祖御命日  
於 清流寺

十六日 九時半 開導御速夜  
廿四日 十時 門祖御速夜  
三十日 十時 欲尊御命日  
於 羽村別院

特別行事  
十八日 十時三十分  
高祖日蓮大菩薩御会式  
晴天祈願  
十一日～十七日  
第一座 午前六時  
第二座 午前九時半

会議  
一日 御総講後 役中会議  
廿五日 御総講後 教区長会議  
廿五日 午後三時 参事会

10月18日(日)  
10時30分  
高祖日蓮大菩薩御会式  
奉修導師長崎・妙薫寺  
御高職 伊藤日博上人

来る十八日午前十時三十分より、高祖日蓮大菩薩御会式が、長崎・妙薫寺御高職である伊藤日博上人にご奉修いただきます。

伊藤日博住職は、現在佛立教育専門学校の教諭として、又、宗務本庁に於ては総合教育委員としてこちらも教務の教育にたずさわっておられ、佛立事典刊行会編集委員等、他方面で活躍中のお導師です。さて、お祖師様日蓮聖人は弘安五年十月十三日にご入滅遊ばされました。法華経本門八品の教えを立

十一月(日)から始まる晴天祈願参詣にも力を入れてご奉公に気張りましょう。  
十月朝参詣強調週間  
十月二日～六日  
第二連合担当

十月の朝参詣強調週間の当番連合は第二連合です。

十月二日(金) 日野教区  
三日(土) 立川教区  
四日(日) 大和教区  
五日(月) 国立教区  
六日(火) 京王教区

二連合内には本年度の教化誓願成就された教区もありますが、とにかく全教区達成の祈願をこめて朝参詣に気張りましょう。

門祖会 二月廿一日  
(門祖日隆聖人)  
欲尊会 五月八日  
(第八世日欲上人)  
開導会 七月廿一日  
(佛立開導日扇聖人)  
高祖会 十月廿三日  
(高祖日蓮大菩薩)

十一月の他寺院参詣  
いずれも当山住職が  
奉修導師

十一月の他寺院参詣は三ヶ寺です。  
十一月十五日 練馬 本信寺  
廿二日 館山 廣全寺  
廿九日 麻布 光隆寺  
右の寺院は当山住職が奉修

「いつでも諸天の守護を蒙り、  
「転重軽受」「逆即是順」の現  
世安穩。臨終に際しては、「淨  
土参拝」「成仏」の大果報を頂  
くという「後生善処」のお計  
らいに常に浴している信心前  
になつたときをいうのであり  
ます。



## 本月の御妙判

### ともあれ教化を

上行所伝の一大秘法とは  
題目の五字也此五字を我も唱  
へ人にもすゝむる処が則此経  
の御本意也 (出離大要抄)

昔の職人は親方についてある一定期間只働きました。が、これが、「年季奉公」というもので、仕事を覚えるのが主で、この場合「どのくらい働いたから、いくらになるか

という事には関係がなかったようです。五年で半人前、十年経つて一人前十五年経つと他人に教えるようになるといふます。教わったことを自分自身がやってみて、それらはすべてトライアル・アンド・エラーと申します。つまり「試行錯誤」の連続であり、やっ

てい

るうちにエラーがだんだん減つてゆき、遂にはトライアルだけになるのが楽しみで、それが職人の生き甲斐であつたということでもあります。

最初は何事でも仲々難しいものであるがともかくトライアルしなければ話になりません。やっ

職人がその仕事は骨が折れるからやらないで、外の事でお茶を濁しているのと同じで、これではいくら年数が経つても一人前にはなれません。御信心上の一人前というの

は「願へば必ず利益あり」

「願へば必ず利益あり」

願言上いたしますが、たゞ個人的に御宝前に祈願しても、仲々そうはなりません。

と御指南下されてあり、ひとの為に、おのれの為にも「教化」をしなければ「佛立信心」にならないのです。

折伏をせよ、皆が皆まで